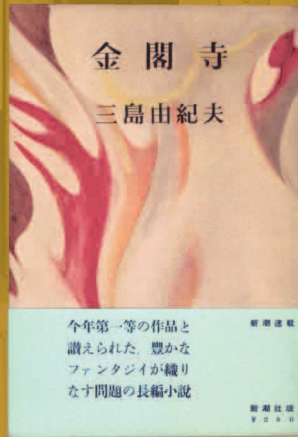




「三島由紀夫における『菊と刀』より『日本の作家』所収 高橋正訳
中央公論社一九七八年（昭和五十二年）

私は無二の親友を失い、
世界は偉大な作家を失った。

『金閣寺』



新潮社 1956年（昭和31年）

宴のあと
三島由紀夫

遂に結晶した三島由紀夫氏の小説美学
文壇の絶頂をあげる400枚の長篇小説
女優福沢かつの最後の恋とその終り
新潮社版 ¥399

新潮社 1960年（昭和35年）

『宴のあと』

『サド侯爵夫人』



河出書房 1965年（昭和40年）

三島由紀夫生誕90年没後45年

ドナルド・キーンが選ぶ 三島由紀夫お気に入り作品 3

コロンビア大学図書館に眠る
三島由紀夫がドナルド・キーンに
宛てた書簡から紐解く



2015年（平成27年）

10月1日（木）— 12月25日（金）

開館時間 10時～17時（入館は16時30分まで）

休館日 毎週月曜日（祝日、振替休日の場合はその翌日）12月26日～3月9日は冬季休館

入館料 大人500円・中高生200円・小学生100円（入館料で特別企画展を観覧できます。）

ドナルド・キーン・センター 柏崎
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI

公益財団法人 ブルボン吉田記念財団

新潟県柏崎市諏訪町10-17 TEL 0257-28-5755

www.donaldkeenecenter.jp/

主催：公益財団法人ブルボン吉田記念財団

後援：柏崎市、柏崎市教育委員会

協力：ブルボン、山中湖文学の森 三島由紀夫文学館
コロンビア大学 C.V. スター東亜図書館

企画展の内容

三島由紀夫の古典に根差した文学を高く評価したドナルド・キーンは、三島由紀夫亡き後、「山中湖文学の森 三島由紀夫文学館」が開館する際、数多くの作品の中からお気に入りの作品、3つを選びました。『金閣寺』、『宴のあと』、『サド侯爵夫人』の3作品を挙げたのです。

そして、その3作品のうち、『宴のあと』、『サド侯爵夫人』は、自ら翻訳しています。

本特別企画展では、『三島由紀夫未発表書簡 ドナルド・キーン氏宛での97通』に載っている3作品の関連書簡(コロンビア大学図書館所蔵)を糸口に、3作品に対するキーン先生の論考とエピソードを紐解いていきます。そこには、三島とキーン先生の「古典」に対する愛情と尊敬、そして現代にそれらを活かそうとする二人の思いがありました。

三島由紀夫生誕90年没後45年

ドナルド・キーンを選ぶ 三島由紀夫お気に入り 作品 3

開催の背景・目的

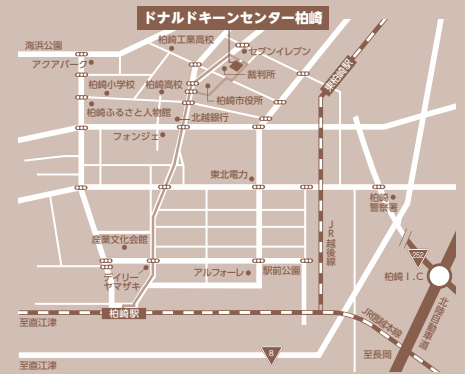
今年是三島由紀夫生誕90年没後45年です。ドナルド・キーン先生にとって三島由紀夫は無二の親友でした。キーン先生と三島の出会いは1954年(昭和29年)まで遡ります。キーン先生は、1953年(昭和28年)、フォード財団の奨学金を得て念願の日本留学(京都大学大学院)を果たします。その研究テーマは、「現代日本における古典文学の伝統」でした。これが、二人の出会いに結びついたので。三島は45年という短い生涯でありながら、数多くの小説、戯曲、論文等を残しています。これらの中から、三島と最も親しかった一人だけ作品を選ぶとしたら何を選ぶのか、それはなぜなのか、本特別企画展では、そんな単純で興味深い問いにお応えできればと思います。



歌舞伎座楽屋にて

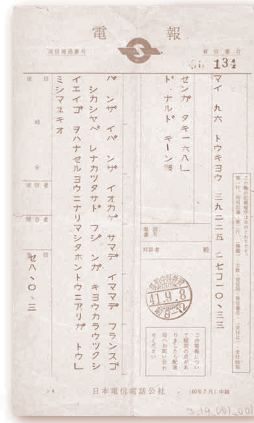
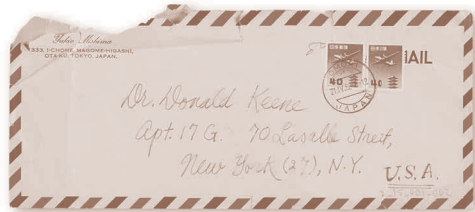
アクセス

JR信越本線 柏崎駅前より、市内循環バス「かざぐるま」東本町先回り線「中央町」バス停下車徒歩約3分



ドナルド・キーン・センター 柏崎
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI
公益財団法人 ブルボン吉田記念財団

新潟県柏崎市諏訪町10-17 TEL 0257-28-5755
www.donaldkeenecenter.jp/



三島がドナルド・キーンに 宛てた電報

1966年(昭和41年)9月8日
キーン先生が『サド侯爵夫人』の英訳の第一稿ができたことを手紙に書いて送ると、三島はすぐに電報を寄越して、「万々歳！」と伝えた。

ドナルド・キーンに三島が宛てた書簡

1962年(昭和37年)4月20日
キーン先生が『宴のあと』の一場面に対して、その意味を質問し、三島がその部分の解説を丁寧に伝えている。



新潮社
1956年(昭和31年)

『金閣寺』

古典主義者として三島は書き続けた。読者になじみのある題材を使い、本を開く前から読者は物語の結末を当然知っているものとして、そのなじみの題材が実話なのか作り話なのかはともかく、彼の芸術家としての個性を吹き込んだのだ。こういった古典主義の最もみごとな作例が長編『金閣寺』(昭和十一年=一九五六)、名高い寺院を燃やした男の物語である。

『思い出の作家たち 谷崎・川端・三島・安倍・司馬』より「ドナルド・キーン著作集第四巻思い出の作家たち」所収 松宮史朗訳 新潮社 2012年(平成24年)



新潮社
1960年(昭和35年)

『宴のあと』

彼は昭和三十五年に、最も完璧な構成を持ち、最も完璧に表現された作品の一つ、『宴のあと』を出版したのである。

『日本の作家』より「ドナルド・キーン著作集第四巻思い出の作家たち」所収 新潮社 2012年(平成24年)



ドナルド・キーン英訳
『宴のあと』
Knopf社
1963年(昭和38年)



河出書房
1965年(昭和40年)

『サド侯爵夫人』

三島の古典主義は小説の構造にもはっきり表われている。が、それが最も極端に出ているのは戯曲『サド侯爵夫人』(昭和四十年)である。(中略)彼は「絶対の探求」という主題の表現に不要なものは一切取り除き、これら古典劇の法則を見事に使いこなしたのである。

『日本の作家』より「ドナルド・キーン著作集第四巻思い出の作家たち」所収 新潮社 2012年(平成24年)



ドナルド・キーン英訳
『サド侯爵夫人』
Grove Press社
1967年(昭和42年)